

# 地球の木

♥地球上のすべての人たちと共に生きたい

## 届け 市民の声!

### G8サミット 市民によるフォーラムに参加して

顧問 横川 芳江

7月7日～9日北海道洞爺湖で主要国首脳会議「G8サミット」が開催されました。「反G8」を掲げる団体の過激な抗議行動が報道されますが、2006年グレンイーグルズ・サミット(英)の頃から、NGOもサミットにただ反対するのではなく市民社会の声を届けて「一緒に解決していく」という活動が中心になってきています。地球の木は「G8サミットNGOフォーラム」に名を連ね、この機会を有意義なものにする活動に参加してきました。開催前に「フォーラム」からの提言書を福田首相に手渡し、首相も事前にNGOから意見を聞くなど、国にとっても市民社会の声を反映させることが必須になってきています。

札幌では“もうひとつのサミット”「市民サミット2008」が開催され、市内数カ所を会場に様々なセミナー、シンポジウム、コンサートなどが行われました。中心となったのは北海道の市民団体・NGO・労働組合・生活クラブ北海道などが連携した「G8サミット市民フォーラム北海道」で、「G8サミットNGOフォーラム」と協力して、市民を巻き込む大きな活動になりました。北海道では連日、「市民サミット」からの情報がメディアに載りましたが、全国版には全く取り上げられなかったようです。首脳たちの食事のメニューやファーストレディの服装などは事細かに報道され、ごく一部の過激な抗議行動は映しても、市民が発信するメッセージが伝えられなかったことは残念です。

「市民サミット」には、世界各地から様々な活動家が集まりました。多くのNGOが訴えていたのは「毎年開催されるG8サミットで様々な約束が発表されるのに、未だに人々の飢えや渇きが癒されていない。それは『G8諸国が儲けるための会議』となっていて、約束を果たしていないからだ!」ということでした。

## CONTENTS

- 届け!市民の声……………1
- ラオス ともに考え、ともに生きる……………2～3
- ネパール マンガルトール村、イマドール村より……………4
- カンボジア 手織りのごとく……………5
- 8年目を迎えた「南北コリアと日本のともだち展」……………6
- ランチから……………6
- ミャンマーサイクロン被害募金報告……………7
- 「リンクする、世界と私たちの日常」……………7
- 活動日誌……………7
- INFORMATION……………8



世界を変えるキャンペーンワークショップでファシリテーターを務める筆者(右から2番目)

食料と原油価格の高騰については、G8サミットでは、「最も脆弱な人々に深刻な影響を与えている」として「食糧安全保障に関するG8首脳声明」を発表しました。しかし多くのNGOは食料価格高騰の原因は「バイオ燃料の導入拡大と無規制の国際投機マネー、そして気候変動の影響によるもので、先進国が作り出してきた問題である」と捉えています。インドネシアのNGOは「穀物価格の30～40%が過熱した投機マネーによるもの。貧困国の食糧支援は税金(ODA)を使うのではなく、通貨取引税による税収にすべき」との提案をしていました。また、フィリピンのNGOは詳しいデータを示しながら、先進国によるバイオ燃料の生産が食料価格高騰の原因であることを訴えました。バイオ燃料にする作物を作るためには広大な土地が必要であり、そのため森林伐採は、そこに住む人々を押し出し、プランテーション化により人手は不必要となる。遺伝子組み換え作物により多くの油分を採取し、投機の機会にもなっているという内容でした。

バイオ燃料は地球温暖化を救う材料として宣伝されていますが、今は生産段階で大量の化石燃料を使用していて、温暖化対策とはなっていません。二酸化炭素排出取引の材料にもなり、そのからくりを見抜くことが必要です。本当の意味で地球温暖化や食料の問題を解決するには、これまで切り倒してきた森林を再生させ、食料の自給率を上げる。搾取しない構造を作っていくことが重要です。

豪華な祝宴を楽しんだ各国首脳はどこまで真剣に捉えるのでしょうか。市民サミットは「世界はきっと変えられる」がテーマでしたが、私たちが現実を把握し、G8諸国が約束を果たすよう見守り続けることが必要です。札幌での新しい連携が今後どのような市民活動につながっていくか楽しみです。

# ともに考え、ともに生きる

## ラオス・カムアン県プロジェクト終了にあたって

### 地球の木から

ラオスチーム 武安 ますみ

日本ではあまり馴染みのないラオスでの、JVCの森林保全プロジェクトに、地球の木が約16年余りも支援を続けてきたのはなぜでしょうか。まず、JVCの支援プロジェクトが単なる物とお金だけの支援ではなく、住民主体の持続可能な地域づくりという視点に共感したからです。未来を決めるのは、JVCでも地球の木でもなく、ラオスの人々です。外部者の価値観を押し付けるのではなく、お互いに意見を言い合える関係を作りながら活動していくことは大変ですが、持続可能な方法だと思っております。

次に、「森林保全・自然農業」という内容が地球の木が活動の根幹とする、「支援地と私たちのつながりを考え、暮らしを見直す」という理念につながるものであるということ。

外貨獲得のためのダム建設や外国企業（日本のお金や企業も関係している）による商業植林により、減少していく村人の森。国民の8割が農村部に住み、森に依存した伝統的な生活スタイルを営んでいるラオスで、森がなくなるといことが、どのような将来をもたらすのか。地球温暖化防止という視点からも森林の減少を食い止めることは緊急課題です。



森はスーパーマーケット

経済効率最優先で突っ走ってきた日本は、モノとお金の面では確かに「豊か」になったでしょう。反面、グローバル化により経済格差は広がり、自殺者が年間3万人を超える社会が出現しました。これでほんとうに「豊か」といえるのでしょうか。

JVCは、村人の森を守るため「土地森林委譲」という制度を利用して森の所有権を明確にし、自分たちで森を管理できるような人材育成や政府への働きかけを行っています。また、食糧不足を補うため、米の収穫量を上げる技術や野菜・果物の栽培の支援も行っています。それは、ラオスの「豊かさ」を守る活動でもあり、グローバル化の波が村を襲うスピードとの競争ともいえます。

市場経済の道を歩み始めたラオスに、地球の木はどんな協力ができるのでしょうか。資金援助だけでなく、現地で村人に日本の現状を伝えることもそのひとつだと考え、訪れる度に話をしてきました。

国内では、ラオスを知る講座を企画したり、里山保全

団体とも交流を図っています。交流を通じて、ラオスのことも知ってもらい、森林や環境というキーワードで連帯できたら、大きな力になるのではないかと考えています。16年あまり支援を続けてきて、今そんなところに辿り着いたという気がします。

カムアン県のプロジェクトは終了しますが、これからラオスとどのように関わり、ラオスチームがどう活動していくのか、今後検討をしていきます。

\*\*\*\*\*

### JVCから

日本国際ボランティアセンター（JVC）  
ラオス事業担当 川合 千穂

JVCは1989年ラオスの乳児死亡率の高さに着目し、農村部における母子保健や衛生教育、井戸、農業に関する生活改善活動を実施した。ラオスの村の暮らしに対する理解が深まる中、1993年からカムアン県にて森林保全の活動が始まった。ラオスの村人にとって、生活の糧であり、家の建材、薬草などを生み出す場である森の喪失は生活基盤の喪失にもつながる。このため、村の森を守る活動を実施してきた。

ところが、2000年頃から大きくラオスの状況は変化した。1995年のタイ-ラオス国境をつなぐ橋の完成、その後道路建設が各地で進むとともに奥の村にもベトナムやタイ、中国など周辺国から商人が木材や薬草などの森林資源を求めて入り込むようになってきた。また、経済発展を希求するラオスにとって外貨を稼ぐ主要な産業として大型ダム開発、産業植林が急増しており、2005年にナカイ高原のナムトゥン2ダムへの支援を世界銀行が承認すると、相次いで大型ダム開発が承認された。また、同年の外国投資法の改正で外国企業が入りやすくなり、カムアン県周辺でも日本やインド企業による産業植林が始まった。ここ2~3年は周辺国によるゴム植林が凄まじい勢いでラオス全国に拡大している。

経済発展が進む一方で、ラオスの村は資源を巡って近隣村との争いの頻発、若者や男性の村外への出稼ぎによる流出、土地を確保したい企業と人口増加で同様に土地を確



保したい村との間で土地を巡っての紛争増加など、これまで以上に多くの問題が起きている。東南アジア地域の経済統合など国際社会における大きな動きの中、ベトナム、タイ、中国といった強国に囲まれたラオスという小国がどのように生き残り、それはまた、未だ昔ながらの採集狩猟の暮らしを送るラオスの村人にどのような変化を及ぼすのか、今後目途の離せない状況となっている。

メコン河流域の経済推進の一環であるベトナム、ラオス、タイ、ビルマをつなぐ幹線道路「東西回廊」が県央を通るサワナケート県にて新しい事業が始まる。経済発展を経験した日本だからこそ、伝えられるものがある。新しい時代をどのように作っていくのか、ともに考え、ともに生きる。村人の視点に立ち、村人を支える活動は今後ますます重要になっている。このような中、同様に継続してラオスの村人に関わる地球の木の存在は、現地における活動にとって心強く、貴重なものである。今後もラオスとつながる仲間としての連携を期待している。

\*\*\*\*\*

### ラオス人御一行様、ようこそ横浜へ

2008年5月25日から約1週間、ラオスプロジェクトの現地パートナーであるラオス森林局からの2名と、JVCのラオススタッフ合わせて5名が、JVCの招聘により日本へスタディツアーでやってきました。

前半は九州の水俣を訪問。日本の経済発展の負の部分である水俣病の現場で話を聞き、またその後の地域づくりや有機農業の実践、林業などについても見学しました。

後半は地球の木のコーディネートで横浜市緑区に残る新治の里山を訪問。最終日には地球の木の総会前のあわただしい時間でしたが、「ラオスと共に歩んだ14年」と題した交流会をもちました。地球の木のラオス支援を振り返り、またJVCのカムアンプロジェクトの成果についてラオススタッフからの報告がなされ、そして手作りのラオス料理をいただきながらの楽しいひとときでした。ラオスの人々と直接触れ合う貴重な機会、もっと時間があればとそれが残念でした。

ラオスの皆さんの目に日本はどう映ったのでしょうか？ 時間に追われての日本滞在でしたが、経済発展・開発の光と影をしっかりと見たことと思います。



横浜の里山を歩く

### 新治の森で……

新治市民の森は、押し寄せる宅地開発のなかで、行政側と市民が協働して保全している貴重な里山です。ラオスの人たちと、まずは田植えを終えたばかりの谷戸の田んぼと森を歩きました。都会の人混みやコンクリートだらけの町並みに、旅の疲れも加わって少々げんざりしていた彼らで

したが、田んぼや森に入ると表情は一転、元気を取り戻したかのようです。

森に入ると「これは○○。ラオスにもある。食べられる」とか言って、いろいろな種類の葉っぱをちぎっては口に入れます。木の実や、桑の実や、野生のベリー類など次々と見つけては口に入れたり、私たちにも勧めてくれます。私たちにとっての森は、その景観や森林浴などに意味がありますが、ラオスの人たちにとっての森はまさに食べることで、生きることと密接につながっているのだと納得しました。その後この横浜の原風景を次世代に残そうと里山保全の活動をしている人たちとの話し合いの場でも、森の持つ意味が、ラオスと日本では、大きく違って来たことを改めて認識することになりました。（ラオスチーム 中野 真理子）



水俣のたまねぎ農家を訪ねてー  
ラオスのたまねぎはもっと小さいので、みんなびっくり

### 現地発

#### ラオス人にとっての理想の暮らしとは？ 日本スタディツアー報告

「1日中歩いているけど子どもに会わないね」  
「どうしておじいさん、おばあさんがまだ農作業しているの？」  
「（屋外で）とっても涼しいけど、エアコンが入っているの？」  
「トイレの水が勝手に流れた!!」

これらは、ラオスの人たちが初めて訪れた日本の農村で、街で、つぶやいた言葉だ。今回のツアーの目的は「経済発展がもたらす良い点、悪い点の双方を見つめ、ラオスのこれからの発展のあり方を見つめ直すこと」。訪問先では、都会の便利な暮らしとは対照的に過疎化が進み、一人で生活している人が多い日本の農村を目の当たりにした。地球の木が企画して下さった交流会では初めて自分達の活動の支援者と出会う機会を得、ラオスの活動を支えてくれる人たちの多くが女性であること、そしてその人たちの持つパワーに圧倒された。「自分のことは自分でやる」農村のお年寄り口を揃えて言うけれど、僕自身は正直、自分がそこまでできる自信はない、とツアーに参加したラオス人は語る。誰もが自立し個人個人で生きている日本の生活。確かにそれは一見頼もしく見えるかもしれないが、ラオスの人たちが求めている理想の暮らしはどうやら違うものようだった。

（JVCラオス現地代表 新井 綾香）



マンガール村より

人と人の絆が「幸せ分かち合い」の原動力

地球の木のみなさんへ

マンガール村の「幸せ分かち合いムーブメント」は、私たちの期待どおり順調に進んでいます。これまでの地道な関係づくりの結果、村の人たちはSAGUNと地球の木を友人として受け入れてくれるようになりました。この信頼関係が大きな原動力となり、村人が活動を意欲的に担おうとしているのが感じられます。

今年度も行動計画に沿ってプログラムを進めています。昨年度は、奨学生の選出基準などの決定で時間がかかり、すでに高校に進学することを決めた生徒の中から奨学生を選ばざるを得ませんでした。今年度は、進学したくても家庭の事情が困難な生徒をどのように選んでいくか、高校の先生、協力委員会（注1）、生徒たちで話し合いをしているところです。より多くの貧しい家庭の青年たちが学べることを願っています。

新しい活動として、村の最も貧しい家庭の人々を対象に、収入創出のための野菜栽培トレーニングを行います。協力委員会のメンバーと定期的に会合を開き、選出方法を話し合っています。委員の人たちはこの新しい取り組みをとて楽しみにしています。

ネパールの食料事情についてお伝えしましょう。食料価格の高騰は、農村よりも都市部の生活に影響を与えていると言えるでしょう。しかし、農村部の人々は燃料費（注2）の値上がりによりかなり大きな打撃を受けています。交通費が値上がりし、貧しい家庭の人たちは町に出ることもできません。さらに輸送費の値上がりは、町から運ばれてくる食料品の値上りを招いています。ネパール中どここの村へ行っても、この話題でもちきりです。私たちの活動予算にも影響が出てくるのが心配です。

「幸せ分かち合いムーブメント」にさらに多くの地球の木の会員が興味を示してくださっていると聞きました。大いに歓迎します。どうぞ地球の木に意見を寄せていただき、マンガール村の人たちと共有し、幸せを分かち合ってくださいと心から願っています。ありがとうございます！

サルバジット・ラマ（プログラム担当）  
カマル・フアル（SAGUN担当理事）



完成した図書室で高校生と交流するカマルさん（左から3人目）

注1：マンガールSAGUN協力委員会：様々な職業の村人10名で構成され、「幸せ分かち合いムーブメント」を推進している。

注2：今年6月に石油製品の値上がりがあった。ガソリンは1リットル100ルピー（約160円）で20ルピーもの値上がり。物価水準（米1キロ70円）を考えると、驚くほど高価である。プロパンガスや灯油も値上がりしており、カトマンズ市内では、学生などによる抗議デモが頻発している。

\*カマル・フアルさんの小論文「PRAを通じた幸せの分かち合い」をボランティアチームで翻訳しました。ぜひお読みください。

イマドール村より

意識改革プログラム進行中！

地球の木のみなさま、ナマステ。

カイラリ郡では、高校卒業試験の合格者を祝う祝賀会、貯蓄グループ・女性グループの会合、ユースクラブの運動会などの行事が行われています。ユースクラブが自分たちで作ったコミュニティ・ハウスもあと一歩で完成です。

イマドール村では、女性たちが憲法制定にどのような役割を担えるかという、意識改革プログラムを実施しています。今年、女性・ダリット（最下層カースト）などの権利を確保するために憲法にどのような条項を盛り込んでいくべきかについての意見交換やトレーニングを行います。もうすぐ女性の祭「ティージ」がやってきますので、この機会に憲法のことを女性たちに伝えていこうと思っています。

原油高騰の影響についてお知らせします。カイラリの人々は市場経済に依存しない生活をしており、塩と衣服以外のほとんどの消費材は自分たちで生産したものを日々、消費しているので、あまり影響を受けていません。ただし、交通費が40%値上がりしたことには痛手を受けています。一方イマドールでは物価の値上がり、あらゆる商品に及んでいます。米・小麦粉の価格は20~25%、豆類は60%、野菜類は10%上がり、食用油は2倍になりました。建材、特に鉄筋は、人材育成センターを建てた時の5倍に跳ね上がりました。物価は変動的で店によっても異なり、突然値上げしたりするので市民はいらだっています。

大統領の選出については、各党の間で合意が取れると期待していましたが、期待は外れ、政党が互いに非難中傷し合うという残念な結果になり、議員投票で大統領が選ばれました。首相の選出についても、政党は皆「合意しないこと」に合意しているという状況なので、泥沼化が予想されます。

農繁期明けの9月以降の計画を進めるにあたって、私たちは内閣の組閣を待っています。女性の能力向上プログラムをイマドール村およびカトマンズ盆地に隣接する地域で実施する予定です。

ニルマラK.C. (SOARS代表)



手織りのごとき……

7月9日~13日まで、カンボジアを訪れた。国民議会選挙を間近に控え、都市部でも地方でも選挙一色だ。2月の訪問からわずかに5ヶ月。雨季を迎えただけでなく、現地の事情が大きく変わっていた。プノム・チソ一周辺に2軒あった職業訓練センターのうち、織物センターは、家賃が50ドルから100ドルへ値上がりしたこともあり、閉鎖されていた。そのセンターでは、身寄りのない子どもやDVの被害者、売られる心配のある子どもたちが寮生活を送りながら、織物の技術を学んでいた。残されたセンターには、閉鎖された織物センターから子どもたちが移ってきて、ほぼ満員状態。寮生活を送っている子どもたちも7人から12人に増え、このところの食糧の高騰もあり、かなり厳しい状況とのこと。

地球の木の支援は、この職業訓練センターで「売れるモノ」作りのアドバイスをし、実際にそれを購入し、日本でも販売すること。センターのシルク小物は地球の木が日本で売らただけでなく、現地で観光客などに売っていくことができるように、ネームタグやラベルの製作を手伝い、デザインを提供し、品質の向上についてもアドバイスを。モノを作り、売っていくノウハウをセンターの人たちと一緒に作り上げていくというものだ。

センターに着くとすぐに、織物の先生が出来上がったばかりのスカート30枚あまりを私に見せにきた。前回注意した「端の始末」や「糸のとび」などが格段とよくなっているし、色や柄も売れそうな感じがした。閉鎖された織物センターから移ってきた技術の優れた子どもたちが作っているのか、先生のやる気が高まっているからなのか、デザイン・品質がぐんとよくなっている。買いに来る人がいるというだけでこんなにも変わっていくものなのか……まだまだ安心はできないが、毎回、少しずつよい方向に変化しているようだ。

注文していた地球の木オリジナルのシルク小物も完成していた。一方で、裁縫クラスの先生が辞めてしまったという問題も発生。物価が高騰するプノンペンで、今の給料ではやっていけないということらしい。引き継いだ新しい「先生」は、辞めた先生の一番弟子。身寄りもなく、センターの寮で寝泊りしているが、裁縫が好きで、ぜひ続けたいという。新しいグッズのサンプルを見せると次の日には、ちゃんと作って見せてくれた。先生としての能力については未知数だが、やる気はあるようなので、3点のサンプルの作成を頼んできた。11月には、地球の木のクメールシルクチームの新メンバーと一緒に訪問する。裁縫の指導などにもじっくり時間をかける予定である。

カンボジアでも、日本でも、社会を取り巻く状況は非常に厳しい。運営面では、山あり谷ありで、危うさは否めないが、センターの先生や生徒たちが徐々に地球の木の関わり方を理解してくれ、やる気を見せてくれているところに希望が見える。少しでも今の暮らしを何とかしたいという現地の人たちと、何とか協力したいという日本人たちを「クメールシルク」で結びつけていきたい。それは、「手織り」のごとき、時間と手間のかかるものなのかもしれないが。

(クメールシルクチーム 筒井 由紀子)



センターの子どもたちにアドバイスをする筆者

今、日本と同様、カンボジアでもガソリンの高騰と食料の高騰が庶民の生活を大きく脅かしている。ガソリンは1リットル1.4ドル（約150円）。日本よりちょっと安いですが、縫製工場や朝から晩まで働いて1ヵ月40~50ドル（4,300~5,300円）程度。公共交通機関もなく、相乗りのバイクがたよりの社会ではその負担はかなりのものだ。さらに大変なのは食料で、米が今年の1.5倍も値上がりしているそう。日本もかつてそうだったように、カンボジア人はほんの少しのおかずでたくさんの米を食べる。そして生活費のうち、食費の占める割合はかなり高いので、人々の生活は大変になっている。

ところが、年10%の経済成長を遂げているカンボジアでは、急激な物価の上昇にもかかわらず、街には高級車を含むたくさんの車が走り、建設ラッシュが続いている。お金は集まるところに集まり、人々の関心もお金に集まる。貧富の格差は日本の比ではなく、そしてますます広がっているようだ。

## 8年目を迎えた「南北コリアと日本のともだち展」

「韓国・北朝鮮・日本の子どもたちの絵の交流を通して理解を深めよう」と始まった「南北コリアと日本のともだち展」は今年で8年目を迎えた。地球の木も実行委員として参加している。今年5月、あーすフェスタかながわで「ともだち展」を開催することができた。お祭りの中の絵画展だったおかげで、2日間で3,500人も入場者があった。会場では、オモニ会による民族衣装試着、コリアン文化研究会の紙しばい、朝鮮学校の先生と生徒たちによる切り絵なども大人気。絵を描いたともだちへのメッセージも50通集まった。初めて見るピョンヤンの子どもたちの絵に、「テレビで報道されない生活を垣間見ることができた」という声が聞かれた。

6月には、青山こどもの城で恒例の「東京展」が開かれた。円形のギャラリーの壁一面に子どもたちの絵約400点が飾られ、見応えいっぱい。今年のテーマは「ともだち紹介」。絵画展の8年のあゆみや、共同製作も展示した。会場では、韓国の絵を提供し、交流しているNGO「南北オリニ・オックドム」の事務総長イ・ギボム氏の講演があった。作品に囲まれて活動紹介をしたギボム氏は「過去にこだわるだけでなく、未来を築いていくことで過去を修復していける」と語った。「今は会えないけれど、将来はきっと出会えるともだち」を主旨とする絵画展の大切さを再確認することができた。



### 川崎 ランチ

## カムアンからようこそ

### 賑やかだったパーティ&ホームステイ



浴衣を着て盆踊り

ラオスの人々を歓迎するパーティは総勢12人で、一言で言えば大変賑やかで温かいものでした。それは、迎える川崎ランチメンバー5人の奮闘によるものと言いたところですが、正直なところ私たちは、事前の準備にささか疲れていました。もてなしの料理や車の手配やお土産の準備etcに。肝心な当夜のプログラムなど何も考えていなかったのです。そんな雰囲気を持ち上げて盛り上げてくれたのは、ラオスの人たちでした。JVCの2人の通訳を介さずに、英語やたどたどしい日本語で語りかけ、自分たちが歌や踊りを披露するから交代で日本の盆踊りや「スキヤキソング」を歌ってくれなどと。たじたじとなる我々を尻目に日本の家でのホームステイを心から楽しんでいるようでした。

(川崎ランチ 金子 瑛子)

### 湘南 ランチ

## みんなで作ろうハロハロ!

8月1日、生活クラブ茅ヶ崎センターでハロハロ作りをしました。

参加者は 2歳から4年生までの子どもとお母さんたち13人。

「フィリピンって知ってる?」と地図を広げると ..... 「しってるよー」と元気な返事。

「日本も島国だけどフィリピンも島いっぱい いくつくらいあると思う?」 ..... 「100個」

「もっともつとよ」と相模の廣瀬さん。 ..... 「えーっ 7,100個もあるの」

カラフルな ジープニーを取り出し「これなーんだ?」 ..... かわいい目がキラリ。

「日本のバスと同じ乗り物よ。バス停って決まなくて

お客さんにあわせてどこでもとまるんだよ」

最後に鉛色の13センチくらいの箱をテーブルに乗せ「これなーんだ?」 ..... がっかり 知っている人いたんです。

「そう。正解。氷かきでーす。塊の氷を かつお節かくみたいにガリガリとやるの」

さてさて お待ちかねの ハロハロ。

「フィリピンは長い間、スペイン・アメリカ・日本などの植民地だったので、いろいろな国の文化が入っているんだよ。ハロハロもそう。ハロハロってまぜこぜとかごちゃまぜっていう意味。プリンやアイスクリーム、ゆであずきなど外国から来たもんだよ。今日はバナナ・ナタデココ・マンゴーやココナッツミルクなどいっぱい入ったハロハロだよ〜」

氷かきの倉林さん、もりつけ説明は坂下さん、お母さんたちの手伝いもあって最高のチームプレイで豪華なハロハロ。 ..... 子どもたちはキラキラ、ニコニコ!!

ハロハロは時間との勝負でした。



(湘南ランチ 國分 純子)

## ミャンマーサイクロン被災救援募金 ありがとうございました

大型のサイクロンがミャンマー(ビルマ)を直撃してから約4カ月、死者・行方不明者13万人、被災者は250万人にのぼると言われています。軍事政権の下、未だに支援物資が何も届いていない被災者が150万人以上いるともいわれていますが、その状況がメディアで報道されることはほとんどなくなりました。地球の木では、支援が確実に被災者の復興に役立つよう、以前から被災地で活動していた日本のNGO「地球市民ACTかながわ」を通じて、緊急・復興支援をおこなっています。支援地域は、ミャンマー国ヤンゴン管区タンリエン僧院孤児院(245名入寮)です。



5月21日には、「地球市民ACTかながわ」のスタッフが第一次支援として、地球の木の10万円を含む寄付金を持って、直接お米1トンなどの食糧や、子ども達の寮兼教室の修復などの緊急支援を実施してきました。現在は、次のサイクロンへの対応も考慮して、子ども達に加え、周辺住民も安全に避難できるシェルター機能も備えた、コンクリート造りの強固な寮を一刻も早く建設するために孤児院側と調整を行っています。地球の木の募金の総額は30,8581円となりました(8月17日現在)。残りの募金は、現地の復興支援に使わせていただきます。ご協力ありがとうございました。(緊急支援担当 米林 大作)

## 「リソする、世界と私たちの日常」

7月5日、横浜NGO連絡会主催の「かながわ国際フォーラム2008」がJICA横浜国際センターで開催された。

基調講演後、午後から開かれた分科会のひとつ「地球環境を取り戻すには」に出た。参加者6名のうち高校生、大学生が4名という若い集まり。

最初に、「ふだん環境に配慮していることは?」と尋ねられた。店へマイカップを持参することが若者の間で流行

## 活動日誌(6月~8月抜粋)

- 6月 4日 地球市民ACTかながわ「ミャンマー報告会」参加(市民活動センター)
- 7日 地球の木サロン「エッセイ修行」
- 11日 地球の木サロン「実践英会話」
- 14日 ネパールスタディツアー報告会(桜木町福祉センター)
- 17日 プランチ連絡会「マジカルシュガー」ワークショップ 地球の木サロン「Tea&Talk」
- 19日 第1回理事会
- 20日 出前講座「マジカルバナナ」(鶴見総合高校)
- 21日 出前講座「ネパール家族ゲーム」(鎌倉女学院)
- 25日 地球の木サロン「実践英会話」
- 24~29日 南北コリアと日本のともだち展(こどもの城)
- 7月 5日 「かながわ国際協力フォーラム2008」参加(JICA横浜)
- 9日 地球の木サロン「実践英会話」
- 9~13日 カンボジア現地調査
- 16日 地球の木サロン「Tea&Talk」

っているらしい。値引きも有難いが、環境問題へ配慮する企業姿勢も高く評価していると聞き、資源を大切にすることが若い層にも浸透しつつあることを知り嬉しかった。

地球の木からは中野真理子さんがラオス森林保全プロジェクトについて事例発表を行った。経済活動が数字として表れず最貧国としての地位に甘んじてはいるものの、森の恵みに支えられ、飢えて死ぬ人はいないという。一方、食料の6割以上を輸入に頼っている消費大国日本。森を守るといっても、ラオスでは生きるため、日本では快適さのための、何かあったときの保険のようなものというスタンスで捉えていて、両国の認識に差があることを確認したとのこと。しかし国益を求め豊かになるための開発=森林伐採が人々の生活を脅かしつつある現実も伝えられた。

話が広がっていく中で、大学生から、「ボランティア活動をして深く知れば矛盾を感じて壁となることがある、続けていくためにどうすればいいのか」という疑問が出された。長年活動に関わっている先輩たちから、「まず目の前にいる助けを必要としている子どものために何をしたらいいのかを考え、より良い世界に変えていけると信じてあきらめずにやっていけば良いのでは」という助言をもらった。(広報チーム 浜辺 美英子)

## 地球の木カフェ特別企画 トンボ玉でペンダントを作ろう!



7/18(金)事務所に「地球の木カフェ」が開催され、今回は特別企画として、広報チームのメンバーでもある柏柳さんの指導のもと「トンボ玉でペンダントを作ろう!」という講習が行われました。真夏にもかかわらず午前の部、午後の部に多数のご参加をいただき、皆様時間を忘れ熱中して制作に取り組みました。各々工夫をこらした素敵なオリジナル作品が出来上がり、大いに盛り上がった一日となりました。当日の売上は52,550円でした。

次回のカフェは9月25日(木)の開催となります。どうぞ一度お越しください! (事務局スタッフ 池田 真貴)

## 地球の木カレンダー2009販売



国際協力カレンダー2009は、なんでもない日常に光を与えてくれるような小さな風景です。「少しでも地球の美しい瞬間に出逢えることを心からお祈りしつつ……」とフォト

エッセイストの白川由紀さんは書いています。予定が書き込めますので、ご自宅用に、またプレゼントにもお使いください。一部 1,500円  
\*詳細は同封のちらしをご覧ください。

## 地球の木カフェ in Autumn

カンボジアシルクや小物を揃えてお待ちしております。  
日 時：9月25日(木) 11:00~18:00  
場 所：地球の木事務所  
\*詳細は同封のちらしをご覧ください

## 地球の木連続講座

### 映画を見ておしゃべりしよう、エネルギーのこと 作ってみよう、ソーラーパネル!

昨年度のテーマ「温暖化防止」に引き続き、今年は「エネルギー」に焦点をあて「もうひとつの選択」を探ります。

第1回 映画「六ヶ所村ラブソディ」を見て、おしゃべりしよう!! エネルギーのこと

日 時：9月27日(土) 13:00~15:00 映画上映  
15:15~16:30 意見交換  
場 所：横浜市民活動支援センター研修室1、2  
参加費：1,000円 お茶つき (地球の木会員 800円)

第2回 「あなたにも作れる!! ソーラーパネル」

講 師：国際協力NGO ソーラーネット 桜井薫氏  
日 時：11月16日(日) 10:00~16:00  
場 所：男女共同参画センター(戸塚)  
参加費：3,000円(作ったパネルは支援地に寄贈の予定です)  
\*詳細は同封のちらしをご覧ください。

## 新3カ年計画検討委員 募集

地球の木では、新3カ年計画検討委員会のメンバーを募集しています。  
参加条件：地球の木正会員であること。(会員歴2年以上)  
締め切り：9月30日  
\*詳しくは地球の木事務局(担当：筒井)まで、お問い合わせください。

## 地球の木サロン「エッセイ修行」

参加者によるエッセイ集ができました! 1部200円。ご希望の方にお分けします。事務局へ連絡をください。

## グローバルフェスタJAPAN2008

日本最大級の国際協力フェスティバルです。地球の木は今年も支援地のグッズの販売で参加します。

日 時：10月4日(土) 5日(日) 10:00~17:00  
場 所：日比谷公園  
主 催：グローバルフェスタJAPAN2008実行委員会

## ネパール・デイ2008

ネパールに関する様々なイベントが繰り広げられます。サリー着つけ教室、写真展、パンチャ・ラムさんのパンスリ(竹の横笛)演奏など。フェアトレード関連で、映画「おいしいコーヒーの真実」も上映。

地球の木は、支援活動やスタディツアーの写真展示、「デブラニ物語」の紙芝居などで参加します。

日 時：2008年10月19日(日) 11:00~17:00  
場 所：地球市民かながわプラザ(JR本郷台駅より徒歩3分)  
共 催：かながわ国際交流財団、日本ネパール協会、地球の木

## 横浜国際フェスタ2008

今年は、地球温暖化対策やエコの取組みをテーマとします。子どもたちが参加できるイベントもたくさんあります。地球の木は支援地のグッズ販売で参加します。是非ご家族でいらしてください。

日 時：10月25日(土) 26日(日) 10:30~17:00  
場 所：パシフィコ横浜展示ホール  
(桜木町駅徒歩15分、みなとみらい駅徒歩2分)  
同時開催：MOTTAINAIフリーマーケット  
特別協力：だがしや染校

## 「日韓地球市民教育交流」in ソウル

2005年から始まった「日韓地球市民教育交流」。今回は2度目の韓国訪問です。韓国でも地球市民教育が注目を集めるようになってきました。日韓のNGO関係者、教育関係者、地球市民教育に関心のある人たちとワークショップをおこない、一緒に学び、交流する場です。みなさんも参加しませんか?

日 程：2008年10月30日(木)~11月2日(日)  
場 所：ソウル女性プラザ  
費 用：渡航費、宿泊費合わせて約7万円。その他移動費、食事代などががかかります。  
問い合わせ：地球の木事務局(担当：筒井)



仲間づくりの秋! 講座やおまつりやカフェに、ボランティアに、お友だちを誘って来てください。

地球の木の活動は会員のみなさんに支えられています! 現在963名。会員数維持を図るため、スタッフ・理事会は様々な試みを実行中。みなさんのお力も大きな支えです。

★ボランティア募集!  
発送作業、イベント手伝いなど